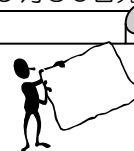


県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 35 —

おききました！ この人・この団体

メイク松戸ビューティフル

会長 戸田 栄造



平成4年9月松戸市倫理法人会の新年度がスタートした。新しい年度にふさわしく私たち経営者の学びの実践としてスタートしたのが会場周りの掃き掃除だった。

だんだん日が短くなってきた中で気持ちの爽やかさが私たち役員を心を満たしてくれた。もっとこの輪を広げようと松戸駅前清掃へと進化をした。

清掃していると道行く人からの声掛けが嬉しかった。「おはようございます。ご苦労様、ありがとうございます」と声を掛けられるとお返しするのが当たり前で「おはようございます！行ってらっしゃい！お気をつけて！」となる。

この短い会話がお互いのきずなを作っていく。そうだこの輪を広げようと他団体にも声掛けをした。ところが当時は松戸市倫理法人会なんて誰も分からない。どっかの宗教団体？なんて誤解もされてしまった。ここで引き下がる訳にはいかない。

松戸駅周辺をきれいにするために駅頭での声掛けを始めた。一週間足らずで7500人の署名が集まった。早速これを川井市長に市民の声としてお届けをした。

即、返事がきて公募市民3名と松戸青年会議所をはじめ7団体が集められ会合がもたれた。そこで言い出しっぺが座長をやれとの指名があり、静岡大学の教授の指導のもと会がスタートした。

会の名は「松戸市空き缶などの散乱防止対策市民会議」役所らしい硬いネーミングだった。進行役をしながらどうも固い。もっとお洒落な名にできないか？みんなで検討した。すると聖徳大学の

委員が『メイク松戸ビューティフル』との提案があり、即決まった。会の運営もラフになり、いろんな声が出て、半年ごとに計4回市長に提言書を提出することができた。議論するばかりではなくプレーヤーになろうと会が動き始めた。

まず、一向に減らないごみを何とかしようと倫理の運動と合わせ月二回の清掃が始まった。動き始めたらおもしろい！新たな発想が次々に生まれた。

どんなごみがどんな場所にどれだけ捨てられているかで生活スタイルが見えてくるポイ捨てウォッチング、瓶、缶、美化、やればできる、をもちってBeCan（美化）フォーラム、他市の美化活動団体との交流、美化の標語募集、日本の百名山清掃登山、松戸から清水公園までの25キロウォーク、環境施設見学などを実施し、松戸市内での各種イベントに参加をし、ゴミの持ち帰りや『やめようポイ捨て』を訴え続けた。

そして新たなNPO団体松戸エコマネー『アウル』の会を立ち上げ、商店会の活性化、ボランティア運動の促進、環境改善活動がどんどん進化をしている。14年前にできた『松戸市安全で快適なまちづくり条例』の提案者にもなった。

更に過日、環境大臣から思いもかけずに功労者表彰を受けることができた。これも会員ばかりではなく、多くの参加市民の協力のお陰様だ。24年間の歴史と言えるのかも？ ありがたいことです！

